

内生的成長モデルとサーチモデルを用いた

経済成長と失業の分析

神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程
任龍壠

要旨

本稿では内生的成長モデルと労働市場のサーチモデルを用いて、経済成長と失業の関係を分析している。内生的成長モデルには最終財を使用して研究開発と中間財の生産を行う実験室モデルと呼ばれる財のバラエティ拡大モデルを使用している。労働市場には企業の利潤や生産性また労働市場の環境が失業に影響を与える DMP モデルと呼ばれるサーチモデルを用いている。本稿のモデルにおいては研究開発活動の費用の低下や政府による研究開発部門への補助金政策は、経済成長率を上昇させる効果が存在する一方で、将来の賃金の変化や企業の割引現在価値の変化を通じて失業に影響を及ぼす効果も存在する。また賃金交渉力や失業手当等の労働市場の環境の変化等も失業と経済成長率の両方に影響を及ぼす。家計の特定のパラメータの条件のもとでは、研究開発部門のコストの低下や補助金政策は経済成長を促進するが、失業率も上昇させる可能性があることを示した。